

令和7年度研究推進計画

江田島市立能美中学校
校長 田中 祐二

1 研究主題、研究内容・方法について

(1) 研究主題

個別最適な学びの実現
～問題解決過程における個に応じた指導の在り方～

(2) 研究主題の設定理由

現代において社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な時代である。それらへの対処として、受け身の観点に立つのであれば難しい時代になると考えられる。しかし、このような時代であるからこそ、変化を前向きに受け止め、感性を働かせより豊かなものにしたり、新しい未来の姿を構想し実現したりできる時代でもある。

さらに、子供の貧困や特別支援教育、外国につながる子供、不登校児童生徒の課題など、子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、一人一人の可能性を伸ばしていくことも課題となっている。

これからの未来の社会を見据え、中央審議会では「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～(答申)」(令和3年1月26日)が取りまとめられた。

本校においても、学校教育目標「自分で考え、全力を出し尽くす生徒の育成」に向けて、昨年度の研究主題を「個別最適な学びの実現～問題解決過程における個に応じた指導の在り方～」と設定し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、授業改善及び研修に取り組んだ。授業改善の視点として、キーワードを「選択肢」と「自己決定」とし、6つの取組のポイントを基に研究を進めた。

《取組のポイントと令和6年度の実践》

① 学習時間の柔軟な提供・設定

【実践(数学)】単元内自由進度学習の実施

生徒一人一人が、それぞれのペースで学習を進めことができるように学習時間の柔軟な設定を行った。授業開始とともに学びの地図を用いて、1時間の授業で何を学び、何をを使って学習するのか確認させ、それぞれのペースで学習をさせた。8割の生徒が、自分の力で学習を進めることができるよう、ワークシートや到達度の分かる小テスト(ボスプリ)を準備した。残りの2割の生徒には、個別に対応し、学習内容だけでなく、学習進度や学習方法のアドバイスも行った。また模範解答や教具を教室前方にまとめて置き、生徒どうしの対話が生まれるような配慮をするなど教室環境の整



備にも取り組んだ。学期毎に単元内自由進度学習におけるアンケートを実施した。数学科における生徒アンケートの結果、「単元内自由進度学習は自分に合っている」の項目の肯定的な割合が、1学期は全校生徒で75.0%だったが、2学期は85.9%と向上した。



② 他者に聞くことができる機会の提供

【実践（国語）】他者に聞くことで自分の学びが深まるような単元作り

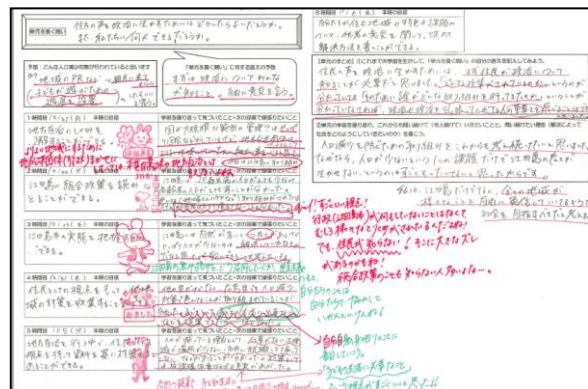
生徒一人一人が探求課題を設定し、その解決に向けて見通しをもって学習活動を行えるような単元計画を行った。授業では、個人思考の時間と他者と交流する時間のメリハリをつけ、相互評価をさせるなどの工夫を行い、自分の課題をブラッシュアップできるように設定した。また、他者との交流の意義や良さを実感できる学習形態を築くことで、協働的な学びの充実にもつながった。



③ 見通しと振り返りの設定

【実践（社会）】振り返りシートの充実

単元を通して生徒の興味が沸くような課題を設定し、単元を追うごとに学びが深まるような工夫を行った。振り返りシートに学んだことを蓄積させるため、本質的な問いや小単元を貫く問いを生徒自身の言葉で書かせる指導を行ったり、振り返りの記述に対する教師のコメントを充実させることで、次の学習への意欲や見通しをもたせることができた。



【実践（美術）】振り返りシートの充実

単元（作品作り）の導入で、三観点の評価基準を説明する際に、技能→クオリティ、思考・判断・表現→オリジナリティ、主体性→授業態度というように、生徒が理解やすく見通しをもてるような工夫を行った。また、見本作品

私の「推し」ポスター 自分の好きなものの魅力を伝えるポスターをつくらう！			
✓評価のポイント			
オリジナリティ (発想・発案・表現)	レイアウト、配色、書体の効果をきかしてつくりあげられたか。		
クオリティ (技術)	タブレットを上手に使い、効率よく、丁寧に作ることができたか。		
授業態度 (主体性)	振り返りと次回目標を活用して計画的に取り組むことができたか。 制作に集中して取り組むことができたか。		
A 集中してよくできた B できた C やまなかった ○○の色を塗る、○○まで終わらせる など			
制作の流れ	日付	自己評価	次回目標
① 制作 (レイアウト)	1/20	A 自分の好きなものについて、 100文字以内で説明し、 魅力を伝えることができた。	自分の好きなものの ポスターをつくらう。
		B 自分の好きなものについて、 100文字以内で説明し、 魅力を伝えることができた。	自分の好きなものの ポスターをつくらう。

(過去の生徒作品)を classroom にアップし、何度も繰り返し確認できるよう工夫した。また、振り返りシートに次回目標の欄を設け、学習の調整を促す工夫を行った。

④ 個に応じた教材の提供

【実践（各教科）】動画やアプリの提供

生徒が自分で選択して学習を進めることができるように、児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて動画やアプリを提供した。



⑤ 個に応じた学習活動の設定

【実践（理科）】各自の方法で情報を収集し、課題を解決する。

単元を通して学んできた知識・技能を利用できる課題の設定を行った。天気を予想する課題に対して、生徒が教科書、インターネット、ワークシート等から自分が使いやすいものを選択し、友達と協議させながら予想を立てさせた。振り返りシートや板書を工夫して見通しをもたせることができた。



⑥ 個に応じた学習課題に取り組む機会の提供及び学習環境の整備

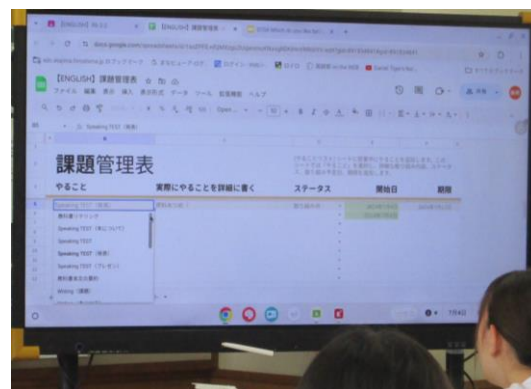
【実践（保健）】各自でテーマや学習する場所を決め、レポートを作成

1年生から3年生まで学んだ内容について、学習の内容、方法、場所を生徒に委ね、レポートを作成させた。



【実践（英語）】

生徒の興味が沸くような身近な題材の課題を設定したり、丁寧にワークシートを作成して、学習内容や評価基準を分かりやすく提示し見通しをもたせた。単元の後半では、ペアでスライドを作成させ、自分たちで決めた国について英語でまとめさせた。学習進度を classroom 上で確認できるようにし、学習環境の工夫にも取り組んだ。



取組の結果、生徒アンケートの「授業では課題の解決に向けて、進んで、資料を集めたり取材をしたりしている。」についての肯定的回答の割合が71.1%から81.4%、「学習の振り返りをするときには、『もっと考えてみたいこと』、『もっと調べてみたいこと』、『もっと工夫してみたいこと』などを考えている。」についての肯定的回答の割合が77.3%から80.5%に上昇した半面、「物事を進めるときに見通しをもった計画を立てるようにしている。」や「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」については、肯定的回答の割合はそれぞれ75%前後であり課題が見られた。

また、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果(知識・技能と思考・判断・表現)及び令和6年度江田島市標準学力調査の結果(基礎と活用)をそれぞれ比較すると、国語の結果においては、全国よりも殆どの観点で上回っている。一方、数

学や英語の積み上げ型の教科では、基礎的・基本的内容が定着できていない。また活用問題にも課題が見られる。

(単位%)

令和6年度 全国学力・学習状況調査 (3学年)		国語		数学		英語	
		本校	全国	本校	全国	本校	全国
	知識・技能	64.0	62.0	62.0	63.1		
	思考・判断・表現	56.1	55.4	28.9	29.3		
令和6年度 江田島市標準学力調査 (2学年)		国語		数学		英語	
		本校	全国	本校	全国	本校	全国
	基礎	65.9	63.1	56.2	55.1	44.4	57.9
	活用	48.6	48.3	30.0	33.1	30.1	41.1
令和6年度 江田島市標準学力調査 (1学年)		国語		数学		英語	
		本校	全国	本校	全国	本校	全国
	基礎	73.3	68.2	61.6	61.3	59.1	61.0
	活用	55.3	44.2	43.6	42.6	48.4	48.1

これらの課題を踏まえ、昨年度の実践を継続するとともに、本質的な問いによる授業改善を推進するため、研究主題を「個別最適な学びの実現～問題解決過程における個に応じた指導の在り方～」と設定し、研究を進めていく。

(3) 研究仮説

生徒が主体となって学びを進め、教員が生徒の実態に合わせた最適な手立てを実行することで、学習のねらいを確実に達成し、学力の向上に繋がるであろう。

(4) 研究内容

《取組の柱》

- 1 単元(題材)を構想する
- 2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを往復する学習活動を展開する
- 3 ICTを最大限に活用する

《取組のポイント》

- ① 学習時間の柔軟な提供・設定
- ② 見通しと振り返りの設定
- ③ 個に応じた学習活動の設定
- ④ 他者に聞くことができる機会の提供
- ⑤ 個に応じた学習活動の設定
- ⑥ 個に応じた学習課題に取り組む機会の提供及び学習環境の整備

(5) 検証の指標

○数値による検証

指標	達成目標	検証方法
学校自己評価に係る生徒アンケート	肯定的回答 80%以上 2回目調査で向上	質問紙調査
全国学力・学習状況調査 生徒質問紙	全項目県平均以上	質問紙調査
広島県児童生徒学習意識等調査	全項目県平均以上	質問紙調査
全国学力・学習状況調査	全科目県平均以上	中3
江田島市標準学力調査	全科目目標値以上	中1・中2

2 検証計画

月	内容
5月	全国学力・学習状況調査 調査問題及び質問紙
6月	広島県児童生徒学習意識等調査
7月	生徒アンケート
12月	生徒アンケート、江田島市標準学力調査

3 本研究に係る研修計画

月	研究内容	担当部会、担当者
4	校内研修（研究の概要について） 評価の仕方について 全国学力・学習状況調査（3学年）	研究主任 校長 教務部
5	校内研修（特別支援教育の考え方、特別支援計画の作成について）	教務部
6	理論研修 広島県児童生徒学習意識調査（2学年） 校内授業研究会・研究協議① 1学期期末試験	研究主任 教務部 研究主任
7	校内授業研究会・研究協議② 生徒アンケート	研究主任 学年部・教務部
8	全国学力・学習状況調査結果分析	教科担任・教務部
10	校内授業研究会・研究協議③	研究主任
11	校内授業研究会・研究協議④ 2学期期末試験	研究主任
12	校内授業研究会・研究協議⑤ 生徒アンケート 江田島市標準学力調査（1・2年）	研究主任 学年部・教務部 教務部
1	研究のまとめ	研究主任
2	江田島市標準学力調査結果分析	教科担任・教務部
3	次年度の方向性の検討	教務部